

ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医育成への挑戦～

第88回 「縮充」して、地域の魅力を凝縮しよう!

～第8回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会～

診療部 石井 敦



2017年5月12日～15日、第8回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会(以下、学会)が、香川県高松市を会場に開催されました。「うどん県」での開催だけあって、参加賞として「うどん券」が配布され、学会会場には屋台が... (笑)。コシの強いうどんを美味しくいただきました。



今回は、超高齢社会を見据え、いわき市医師会やいわき市・養生会が近年注力している地域包括ケア、病院外看取りに関する新しい知見を求めて、関連するシンポジウムを中心に参加しました。学会では、地域包括ケアに関する、各地での先進的な取り組みが紹介されていました。いずれも素晴らしい試みでしたが、そもそも今のいわき市と全く同じ状況の地域は存在しないので、そのまま模倣してもうまくいかないであろうことは容易に想像がつかしました。

一方で、地域住民一人ひとりが、その地域の風土や特長を活かしながら、自分や家族、周囲の well-being (幸福・健康) の実現に向けて主体的に参加・行動し、結果として地域コミュニティを住民自身がより豊かなものに変えていこうとする「参加」と「自治」をキーワードとした取り組みには、いわきでも参考にできる部分が多いと感じました。気候が穏やかで、観光資源にも恵まれ、農林水産業や工業も盛んな当地のアドバンテージを「参加」と「自治」の住民力で最大限に活用できれば、いわきはまだまだ頑張れると思います。

更に、鹿島地域の動きと照らし合わせて考えてみました。学会のシンポジウムを通して、「医商連携」「一円融合」のまちづくりを目指す鹿島地域の取り組みを加速させるためには、「参加」と「自治」に加えて、「縮充」という発想が重要であることに気付くことができました。縮充の語源は、ウールをアルカリ水のなかで揉むとできる、縮んで中身の詰まったフェルト状の素材(縮充ウール)です。縮充は縮小でも縮退でもなく、かといって拡充でも補充でもありません。縮みながら充実していくという発想です。人口を増やすとか、市街地を拡大するとか、経済成長を目指すようなまちづくりは、これからの人口減少時代、殊に原発事故にともなう避難から帰還への動きが加速し、更に小名浜にオープンするイオンモールとの競合が必至となる当地には不向きで、これからはむしろ縮充のまちづくりが求められるでしょう。縮充という視点から言えば、人口が減ったとしても積極的にまちづくり活動を展開する人の割合が増えれば良いのです。「自分たちのまちは自分たちで経営していくんだ!」という意識を共有する人の割合が増えることが重要であり、そういった意味では鹿島地域における地域住民主導の熱い取り組みは、超高齢社会を乗り切る「鹿島モデル」として世界に発信できる先事例に発展する可能性を秘めていることを確信して帰還した次第です。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第75回

かしま病院 リハビリテーション部のご紹介

改善を図る専門家です。OTは環境に合った道具を選定し、手工芸、園芸などの作業活動を用いて、食事や入浴といった生活動作、さらに復職などといった応用動作の獲得を図る専門家です。STは食べることや話すことなどの機能の改善を図る専門家です。この3つの職種がそれぞれの立場から治療を行い、連携を図ることで患者様が退院後により良く過ごせるように改善を図っています。

また、当院では入院から在宅へと継続したリハビリを提供しています。患者様が病気を発症してからすぐの時期を「急性期」といい、状態が安定し、身体機能の回復時期を「回復期」、退院して自宅や

わたしたち、かしま病院リハビリテーション部は、理学療法士(PT)26名、作業療法士(OT)18名、言語療法士(ST)9名の総勢53人で患者様の回復を目指して日々活動をしています。PTは運動や温熱、電気などの物理療法を用いて立つことや歩くことなどの動作の

施設で生活をしている時期を「生活期」といいます。わたしたちは、このような患者様の病態時期に合わせてリハビリを行っています。病気を発症してから間もない場合には「急性期病棟」に入院し、治療をしながら早期離床を目指します。病状が安定してくると「回復期病棟や地域包括病棟」に入院や転棟をし、今後の退院場所に応じた、生活動作の獲得や復職を目指します。また、自宅への退院後に、身体機能の維持を図るために生活期のリハビリとしてクリニックかしまでの「通所リハビリ」を行っています。さらに、自宅環境での生活に問題がある方や通院の出来ない重度の障害の方に対して行う「訪問リハビリ」があります。このように入院から退院後と継続して関わることで、患者様の身体状況だけでなく、他職種やご家族との関わり、個々の性格や生活環境などを大切にしながら、リハビリを行っています。

理学療法士 佐藤 里菜



かしま荘通信

誕生会

5/16(火)



5月は5名の利用者様が誕生日を迎えられ、副施設長より、お祝いの言葉と花束が贈られました。今回は、いわき漣笛会様による山口流篠笛の演奏をお聴かせ頂きました。会場の皆様も「浜辺の歌」等の曲を、篠笛の美しい音色に合わせ、自然に口ずさんでいました。

イベント開催予定のお知らせ

糖尿病教室

- 日時 毎月第1火曜日 10:00～10:30
会場 クリニックかしま会議室
- ・6月6日『クイズで知る糖尿病のお薬』
 - ・7月4日『食事療法って大変? みんなどうしてるの?』
 - ・8月1日『検査について』

ゆる体操教室

- 時間 1回目 13:30～14:30
2回目 15:00～16:00
会場 クリニックかしま会議室
- ・6月 3日(土)
 - ・7月 1日(土)
 - ・8月27日(日)

家庭医療セミナー～実践家庭医塾～

- 時間 19:00～20:00
会場 かしま病院コミュニティーホール
- ・6月 22日(木)

乳がん患者のつどい アイリスの会

- 日時 毎月第3水曜日 14:00～15:30
会場 かしま病院コミュニティーホール
- ・6月 21日(水)
 - ・7月 19日(水)
 - ・8月 16日(水)

興味のある方は、お問い合わせください。